第6学年社会科学習指導案

指導者　西本　修平

1　日　時　令和8年1月28日(木)2校時　10:00～10:45

2　場　所　6年竹組教室

3　単元名　長く続いた戦争と人々のくらし

4　単元目標

○　世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表などの資料を調べたり聞き取り調査をしたりして、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦について理解したり自らの問いを探求したりすることができる。　【知識及び技能】

○　戦争が人々の生命や生活、社会に与えた深刻な影響を多角的に考察し、平和の尊さについて自分の考えをまとめることができる。　【思考力、判断力、表現力等】

○　戦争の悲惨さや平和を築くことの大切さを主体的に受け止め、学んだことを他者に伝え、生活に生かそうとする態度を養う。　【学びに向かう力人間性】

5　指導観

⑴　児童について

本学級は、学習に主体的に取り組もうとする児童が多く、1学期から課題解決的な学習に積極的に取り組んできた。社会科においても、いくつかの単元において個の問いに応じた共有ツールを活用した協働学習にも取り組んできた。その中で、探求する学びに対する楽しさや協働学習の良さを感じながら学習を積み重ねてきた。しかし、個の問いを立てることが難しい児童がいたり、協働学習や児童相互の交流が一定の人間関係の中で行われていたりする課題もある。これらの課題を克服するために、協働学習アプリを活用することで、一人一人の現在の学びの進捗状況を細かく把握して、学習がより深まるようにしていきたい。また並行して、児童は総合的な学習の時間で平和学習を進めている。12月には本校へ講師を招き、被爆体験伝承講話学習を行った。伝承講話学習を通して、過去の出来事、自分とは遠い出来事だった戦争を自分事として捉え始めている。「最大の人権侵害」である戦争に対して、一人一人が今の自分の学びの先に何ができるのか、これからの未来をどのような社会にしていきたいのか考えられるようにしていきたい。

⑵　単元について

本単元「長く続いた戦争と人々のくらし」は、学習指導要領第6学年内容(2)ア(サ)を扱っている小単元である。日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦の事象を取り上げ、それらが国民の生活や社会にどのような影響を与えたのかを、人々のくらしという視点から多角的に考察し、平和の尊さについて理解を深めていく学習である。戦後80年という重要な節目を迎え、戦争体験者の高齢化が進み、実体験に基づく証言を直接聞く機会は急速に失われつつある。このような時代背景において、本単元は、児童が戦争を「遠い過去の出来事」として風化させるのではなく、「過去、現在、そして未来へと連続している自分事」として考え、主体的に向き合うための重要な学習機会となる。1人1台端末と高速クラウド環境を生かしながら、教科書の記述や資料を学びの基盤として進めていく。また、児童の問いがより深いものになるようデジタル化された資料等も活用しながら指導を進めていきたい。戦争が長期化・拡大する過程と、それに伴う人々のくらし(食糧難、学童疎開、勤労動員、空襲など)の具体的な様相を様々な資料を関連付けて理解を深めていく。さらに、収集した情報を整理・分析することを通して、戦争が人々の生命や生活、心情に与えた深刻な影響について、多角的に考察する時間を設けていく。そして、単元の最後には、これらの学びの集大成として、平和の尊さや自分たちの責務について考えたことを未来の自分や他者に伝える「平和のカギシート」として表現させる。単元全体を通して、GIGAスクール環境を基盤とした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通じ、児童が主体的に平和を希求する態度を涵養することを目指す。

⑶　指導に当たって

単元の導入では、教科書を共通の基盤とし、デジタル資料の一斉提示なども行いながら戦争の全体像や基本的な知識をまず全員で共有する。学習の積み重ねは、単元を通して、自由進度学習を取り入れながらFigJamに整理していく。全員が他者のシートを自由に見れる環境を作り、新たな問いを立てたり自分の学びをより良いものにしたりできるようにする。「誰にどのような影響を与えたのか。」を共通の問いとし、児童は教師が設定したミッションを基に、教科書の資料や本文を整理・分析する活動を通して、学びを深めていく。資料と資料や資料と本文を結び付けながら、新たな気付きや問いを整理する中で、戦争が人々に与えた影響を多角的な視点で考えられるようにしていきたい。学習を進めていく中で迷ったり困ったりした場合は、自由に交流できるようにする。直接、友達のところへ聞きに行ったり、友達のシートを見たり教師に尋ねたりなど、様々な解決方法がある。どれを選択するかは児童に委ね、自発的な学習展開になるように心掛けたい。また、支援が必要な児童には教師から声を掛けたりヒントを与えたりするなどして、個別最適化も図りたい。そして、授業ごとの終末は、スプレッドシートに現在の進捗状況を入力させる。そうすることで、児童の現在の状況を確認すると共に、次回のミッションの内容を調整していく。また、児童相互の確認にもつなげ、学びが充実したものになるようにしていく。単元の最後には、学びの集大成として、今の自分が考えた「平和のカギシート」を作成する。ただ単に平和な世界や社会にしたいという願いに留まるのではなく、どういった世界や社会が平和と言えるのか、そのために今の自分には何ができるのか、どのような生き方をしたいのかを個々に答えを出させたい。その際、今の日本国憲法と今回の学習のつながりについて投げ掛けることで、今回の学習が自分たちにも直接的に関わっていることを想起させながら学習のまとめができるようにしたい。さらに、社会科で学んだことを生かしながら総合的な学習の時間の平和学習のまとめにつながるように学習展開やまとめ方を工夫していく。

5　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べたり聞き取り調査をしたりして、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことを理解している。	①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて考え、適切に表現している。 ②日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民の生活が大きく変わったことを考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	①戦争の悲惨さや平和を築くことの大切さを主体的に受け止め、学んだことを他者に伝え、生活に生かそうとしている。

6　指導と評価の計画

時間	ねらい	○主な学習活動　・内容	▫資料	評価方法と【評価規準】

1	長く続いた戦争が人々に与えた影響に関心を持つと共に、単元の学習計画への見通しを持てるようにする。	○教科書の挿絵や動画、戦争へ行った人のメッセージを読み、考えたことを話し合う。 ・なぜ、原爆ドームは世界遺産になったのか。 ・戦争へ行った人や残された人たちはどういった思いだったのか。 ・「今」を生きる私たちに必要な思いや行動は何か。	□被爆前・被爆後・現在の原爆ドームの写真 □戦争へ行った人からのメッセージ	長く続いた戦争が人々にどのような影響を与えたかに着目して、今の思いや考えを表現している。【思―①】 戦争の悲惨さや平和を築くことの大切さを主体的に受け止め、学習への意欲を高めたり問いを持とうとしている。 【態―①】
2	満州事変から日中戦争に至った経緯と戦争の広がりについて理解する。	○満州事変から日中戦争に至った経緯や戦争の広がりについて、資料や地図、本文などから読み取り、考察する。 ・不景気による生活の困窮。 ・中国へ勢力を伸ばし、景気を回復しようとした。 ・満州事変が起こり、中国各地へ戦争が広がる。	□資料や地図、本文、年表	必要な情報を集め、考察し、我が国が中国各地において戦争を拡大していったことを読み取り、理解している。 【知―①】
3	太平洋戦争への突入とその広がりと影響について理解する。	○世界での戦争の広がり(第二次世界大戦)や太平洋戦争の始まりと広がりについて、資料や地図、本文などから読み取り、考察する。 ・ヨーロッパでの戦争の激化。 ・アジアの戦場化。 ・三国同盟。 ・戦況の悪化。 ・国民は「正しい戦争」だと思っていた。	□地図、本文、写真、グラフ	必要な情報を集め、考察し、日本は戦争を拡大し、戦場となった地域などの人々に大きな被害を与えたことを理解している。【知―①】
4	戦争中の国民の生活の様子と、それがどのように制限されたかを理解する。	○写真、本文や表、収集資料を活用して、戦争中の国民の生活の様子について調べ、考察する。 ・政府は戦時体制を強め、くらしはすべて戦争のために制限された。 ・食料や衣類は配給制となった。 ・学生は工場で働いた。	□写真、本文、表、標語	動画資料の活用や教科書の情報を整理・分析して、戦争中の国民生活の様子を理解している。【知―①】
5	日本の各都市が受けた空襲の被	○東京大空襲の想像図や写真、地図、本文、動画資料な	□東京大空襲の想像	必要な情報を集め、考察し、国民が大きな被害を

	害と、沖縄戦などの激戦による被害を理解する。	どから分かったことを考察する。 ・1944年になると米軍による都市部への空襲。 ・軍事施設への空襲から住宅地への空襲。 ・焼夷弾の使用。	図、写真、地図、石碑、本文、聞き取り調査資料	受けたことを理解している。【知―①】
6	沖縄戦や原爆投下などによって戦争が終結した経緯を理解し、その被害の大きさを理解する。	◯写真や平和の礎、証言や本文などを基に、沖縄戦や原爆投下による被害、終戦の経緯を調べ、考察する。 ・沖縄戦では一般市民や生徒までが動員され、多数の県民が犠牲となった。 ・広島・長崎に原爆が落とされ、日本は降伏した。 ・15年にわたる長い戦争の終わり。	▫写真、平和の礎、証言、本文	必要な情報を集め、考察し、戦争によって、沖縄の人々や原爆が投下された広島や長崎の人々をはじめ、国民が大きな被害を受けて戦争が終了したことを理解している。【知―①】
7	長く続いた戦争が国内外の多くの人々に与えた影響について、調べたことを整理し、自分の考え（平和のカギシート）にまとめる。	◯戦争によってもたらされた影響について、これまで調べたことを整理する。「平和のカギシート」 ・長く続いた戦争が国内外の多くの人々に与えた影響について、自分の考え（平和のカギシート）にまとめる。	▫これまでの資料	これまで調べたことを比較し、関連付けたり組み合わせたりして、戦争がもたらす被害の大きさについて考え、表現している。【思―②】 調べたことをFigJamにまとめ、我が国と中国との戦いが全面化したことや連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことを理解している。【知―②】
8 本時	「平和のカギシート」を基に対話をし、他者や自分の考えの良さを重ねながら、単元全体を振り返り、平和への考えを深める。	◯「平和のカギシート」を基に自由交流を通して、他者の考えの良さに気付く。 ◯これまでの学習全体を通した振り返りを書き、平和への考えを深める。 ・自由交流を通して、他者の良い考えと自分の考えを重ねる。	▫これまでの資料、平和のカギシート	学んできた具体的な事実や自分のノート（FigJam）を根拠として振り返り、伝え合うことができている。【思―①】 戦争の悲惨さや平和を築くことの大切さを主体的に受け止め、学んだことを他者に伝え、今後に生かそうとしている。【態―①】

7　本時の指導

（1）　ねらい　学んできた具体的な事実や自分のノート（FigJam）を根拠として振り返り、　　伝え合うことを通して、今後に生かすことができる。

（2）　準備物　1人1台端末、掲示資料、戦争体験者からのメッセージ、学び方カード

（3）　展開

学習活動	○　主な発問 ・　予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◎評価規準（方法）
1. 前時の内容を確認する。	○　前時までの内容を確認して、自由交流で話したい内容を整理しましょう。	・　学習の過程を確認させ、自分の考えを整理してスムーズな対話ができるようにする。【FigJam】
2. 積み上げてきた資料「平和のカギシート」（FigJam）を基に対話をする。	○　似た考えの人と考えを交流しましょう。 ・　私は○○が人々の暮らしに大きな影響を与えたと思う。　なぜなら・・・。 ・　●●は同じだね。教科書のここが根拠です。 ・　なるほど。その視点も大事だね。 ・　○○については、どう思う。	・　自由交流をし、様々な見方・考え方に触れさせ、理解を深めたり広げたりできるようにする。 ・　交流の中で得たヒントは、自分の「平和のカギシート」にどんどん追加させる。 ◎　学習してきたことを基に、自分の考えを整理して、伝え合うこと ができている。（観察）
3. 単元を通しての振り返りをする。【スプレッドシート】	○　交流したことを通して、自分の考えをまとめましょう。 ・　平和な世の中をつくるためにも僕は対話を大切にしたい。 ・　相手のことを考えて行動することが平和への第一歩だと思う。 ・　メッセージの思いに応えるためにも、これからも知る、行動するを大切にしたい。	・　初めてメッセージを読んだ時と学習を積み重ねた今の思いを比較させ、自分の中の変化を含め、まとめられるようにする。 ◎　学習の成果を整理して、自分の学びを振り返ることができている。（スプレッドシート）
4. 振り返りの内容を基に対話する。	○　みんなの思いを共有し、平和への考えを高めましょう。 ・　対話を通して相手を理解していきたいね。 ・　身近なところで何ができるのか、を大事にしていこう。	・　自由交流で他者の意見に触れ、自分の思いと比べることで、自分の思いを高めたり、他者の考えの良さに気付けるようにする。 ◎　学んできた具体的な事実や自分のノート（FigJam）を根拠として振り返り、平和への考えを伝え合うことができている。（観察）
5. 総合的な学習の時間へつなげる。	○　これまでの学びを総合的な学習の時間の学びにつなげていきましょう。	・　総合的な学習の時間への展開につながるような学習の投げ掛けをし、学びの継続ができるようにする。

平和への思いを深め、自分の考えを伝え合おう。